

科目番号	BA101						
科目名	樹木学						
担当教員	鶴田 誠		所属等	日本樹木医会前兵庫県支部長			
科目区分	生態・環境			人材養成の方針	即戦力	リーダー	地域貢献
対象学年	1年			授業形態	講義・演習		
開講時期	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	単位数	2	
授業時間数	15 コマ (30 単位時間)						
実務経験のある教員による授業科目			○	左の実務経験の内容	樹木医		
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無			－	左の実務経験の内容	－		
実務経験を活かした授業内容	樹木医の知識と経験をもとに、樹種ごとの特性をふまえながら、樹木の基礎知識に関する講義を展開する。						

目的	樹木の名称や性質を知り、育林や木材利用を行うために必要となる基礎的な知識を得る。						
概要	樹木の種類や生態、その特徴や利用方法について学ぶ。						
キーワード	①植物の種とその形態 ②植物の形態と機能 ③針葉樹の名称と区別 ④広葉樹の名称と区別 ⑤森林生態 (植物群落の解析)						
関連する科目	森林生態学、樹木学実習、樹木医学						
到達目標	○	森林林業の即戦力として活躍するための実践的な技能の習得					
	○	森林林業の次代のリーダーとなるための専門知識及び技術の習得					
	－	多自然地域の振興や課題解決に貢献するための幅広い知識及び技術の習得					
評価方法	筆記試験100%						

授業計画	テーマ	講義内容
1	植物の種と形態	植物の種類と種について
2	植物の種と形態	樹木及び草本の組織と機能
3	植物の器官と機能	植物の器官の名称と機能、植物分類のポイントとなる器官
4	植物の器官と機能	花、葉、茎、幹、根、果実などの見分け方、学名の規則
5	針葉樹類の名称と区別	針葉樹の形態的特徴
6	針葉樹類の名称と区別	主な針葉樹の特徴と利用
7	広葉樹類の名称と区別	広葉樹の形態的特徴
8	広葉樹類の名称と区別	広葉樹の形態的特徴
9	広葉樹類の名称と区別	主な広葉樹の特徴と利用
10	広葉樹類の名称と区別	主な広葉樹の特徴と利用
11	広葉樹類の名称と区別	主な広葉樹の特徴と利用
12	広葉樹類の名称と区別	主な広葉樹の特徴と利用
13	広葉樹類の名称と区別	主な広葉樹の特徴と利用
14	広葉樹類の名称と区別	主な広葉樹の特徴と利用
15	試験	休憩時間の廃止、昼休みの時間短縮により1日で5コマ分の講習時間を確保

テキスト	新学生版「牧野日本植物図鑑」－北隆館 野外観察ハンドブック 写真で見る植物用語－全国農村教育協会						
参考書	山溪ハンディ図鑑木に咲く花 (③離弁花1、④離弁花2、⑤合弁花・単子葉・裸子植物) 樹木類の解説書						
関連する資格	樹木医補、森林情報士2級						
備考							

科目番号	BB101						
科目名	樹木学 実習						
担当教員	山田 裕司		所属等	日本樹木医学会兵庫県支部長			
	喜多 宏高			日本樹木医学会兵庫県支部			
	小野山 直樹			日本樹木医学会兵庫県支部			
科目区分	生態・環境			人材養成の方針	即戦力	リーダー	地域貢献
対象学年	1年			授業形態	実習		
開講時期	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	単位数	1	
授業時間数	15 コマ			(30 単位時間)			
実務経験のある教員による授業科目			○	左の実務経験の内容		樹木医	
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無			－	左の実務経験の内容		－	
実務経験を活かした授業内容	樹木医の知識と経験をもとに、樹木観察を通じて樹種の特徴を学ぶ。						

目的	樹木学（講義・演習）で学習した樹木の分布や形態について、視察や実習により理解を深める。						
概要	野外での樹木の観察、採取、標本作製、調査						
キーワード	①樹木観察と採取・標本の作製(温帯域) ②氷ノ山の植物観察(低山帯、亜高山帯) ③国有林の見学 ④近隣の巨樹・巨木						
関連する科目	森林保護学、樹木医学						
到達目標	○	森林林業の即戦力として活躍するための実践的な技能の習得					
	○	森林林業の次代のリーダーとなるための専門知識及び技術の習得					
	－	多自然地域の振興や課題解決に貢献するための幅広い知識及び技術の習得					
評価方法	試験60%、提出物40%						

授業計画	テーマ	講義内容
1	近隣の巨樹、巨木	・神社の鎮守の森など、人々の生活と樹木のかかわりを学ぶ
2	近隣の巨樹、巨木	・神社の鎮守の森など、人々の生活と樹木のかかわりを学ぶ
3	近隣の巨樹、巨木	・神社の鎮守の森など、人々の生活と樹木のかかわりを学ぶ
4	国有林の見学	・奥地林として原生植生に近い植物群落が残る国有林の樹木を観察し、二次林や人工林との相違を確認する。
5	国有林の見学	・奥地林として原生植生に近い植物群落が残る国有林の樹木を観察し、二次林や人工林との相違を確認する。
6	国有林の見学	・奥地林として原生植生に近い植物群落が残る国有林の樹木を観察し、二次林や人工林との相違を確認する。
7	国有林の見学	・奥地林として原生植生に近い植物群落が残る国有林の樹木を観察し、二次林や人工林との相違を確認する。
8	温帯域の樹木について	・国見の森公園で樹木観察と採取、標本の作製
9	温帯域の樹木について	・国見の森公園で樹木観察と採取、標本の作製
10	温帯域の樹木について	・国見の森公園で樹木観察と採取、標本の作製
11	温帯域の樹木について	・国見の森公園で樹木観察と採取、標本の作製
12	公園の樹木	
13	公園の樹木	
14	公園の樹木	
15	試験	

テキスト	新学生版「牧野日本植物図鑑」－北隆館 野外観察ハンドブック 写真で見る植物用語－全国農村教育協会
参考書	樹木類の解説書
関連する資格	樹木医補、森林情報士2級
備考	

科目番号	BA102						
科目名	森林生態学						
担当教員	大住 克博			所属等	鳥取大学名誉教授		
科目区分	生態・環境			人材養成の方針	即戦力	リーダー	地域貢献
対象学年	1年			授業形態	講義・演習		
開講時期	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	単位数	2	
授業時間数	15 コマ (30 単位時間)						
実務経験のある教員による授業科目	-			左の実務経験の内容	樹木医		
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	-			左の実務経験の内容	-		
実務経験を活かした授業内容							

目的	樹木や森林に関する生態学的な知見を学び、森林生態系の動的な考え方を身につける。						
概要	森林に生息する植物、動物、菌類、細菌類などの生物群集と、土壌や気象などの環境との関わりによって生まれる森林生態系について知見を深める。						
キーワード	①生態学 ②気候と植物の分布 ③遷移 ④森林と環境 ⑤森林生態系 ⑥森林の成長と物質生産⑦森林が生み出す環境						
関連する科目	造林学、造林学実習、樹木学、樹木学実習						
到達目標	○	森林林業の即戦力として活躍するための実践的な技能の習得					
	○	森林林業の次代のリーダーとなるための専門知識及び技術の習得					
	-	多自然地域の振興や課題解決に貢献するための幅広い知識及び技術の習得					
評価方法	筆記試験90%、履修態度10%						

授業計画	テーマ	講義内容
1	導入	生態学とは
2	気候と植生の分布	植生、群落、気候と森林
3	気候と植生の分布	日本の森林帯
4	遷移	遷移系列、極相、土地利用と遷移
5	森林と環境	環境とは何か
6	森林生態系	食物連鎖、物質循環、エネルギーの流れ
7	生物多様性	生物多様性とは
8	持続可能な森林経営	森林生態系と持続可能な森林経営
9	現存量と物質生産	森林の成長と現存量及び生産構造
10	現存量と物質生産	森林の生産量
11	森林環境	森林による環境の保全
12	森林環境	地球環境と森林
13	里山の現状と課題	里山とは、里山の歴史、現在、未来など
14	兵庫県の森林環境施策	豊かな森づくり、災害に強い森づくり、資源循環型林業など
15	試験	(学校対応)

テキスト	講義の際に資料を配布する。
参考書	森林の百科、森林環境科学、林業技術ハンドブック、森林林業実務必携、ニューフォレストーズガイドなど
関連する資格	樹木医補、森林情報士2級
備考	

科目番号	BA103						
科目名	森林機能保全1						
担当教員	谷口 俊明		所属等	県立森林大学校長			
	藤堂 千景			県立森林林業技術センター上席研究員			
	光都農林職員			県光都農林振興事務所			
科目区分	生態・環境			人材養成の方針	即戦力	リーダー	地域貢献
対象学年	1年			授業形態	講義・演習		
開講時期	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	単位数	2	
授業時間数	15 コマ			(30 単位時間)			
実務経験のある教員による授業科目			○	左の実務経験の内容	災害に強い森づくり事業		
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無			○	左の実務経験の内容	試験研究、行政事務、治山業務		
実務経験を活かした授業内容	治山課森林保全室 班長、室員による保安林の役割と機能についての講義 豊かな森づくり課副課長による災害に強い森づくりの講義 治山課長による山地災害と治山事業の講義 光都農林振興事務所職員による、治山ダム、地すべり工事現場の見学 森林林業技術センター上席研究員による森林のもつ減災機能の講義 林地開発許可基準を使った水文計算等						

目的	森林の多面的機能を理解し、機能の維持向上や高度に発揮させるための課題や手法を学ぶ。	
概要	山地災害防止対策から森林吸収源対策まで、森林の多面的機能に関連する諸課題について幅広い知見を深める。	
キーワード	①森林の多面的機能 ②保安林 ③地球温暖化対策 ④森林吸収源対策 ⑤水源涵養機能 ⑥災害防止機能と災害のメカニズム、対策 ⑦治山事業 ⑧災害に強い森づくり	
関連する科目		
到達目標	—	森林林業の即戦力として活躍するための実践的な技能の習得
	○	森林林業の次代のリーダーとなるための専門知識及び技術の習得
	○	多自然地域の振興や課題解決に貢献するための幅広い知識及び技術の習得
評価方法	筆記試験70%、授業態度15%、出席15%	

授業計画	テーマ	講義内容
1	森林の多面的機能とは	森林の多面的諸機能の種類と内容、森林の果たす役割
2	保安林とその機能	保安林の種類と目的
3	水源涵養機能	森林が持つ水源涵養機能と森林水文学の要点
4	水源涵養機能	森林が持つ水源涵養機能と森林水文学の要点
5	災害に強い森づくり	(1)災害に強い森づくりとは(2)事業の種類と目的
6	災害に強い森づくり	(3)事業の効果(4)緊急防災林整備の現地見学
7	地球温暖化対策と森林吸収源対策	(1)地球温暖化対策と森林の役割
8	地球温暖化対策と森林吸収源対策	(2)森林吸収源対策と地球サミット、パリ協定
9	減災に向けた森林の整備手法	(1)樹木根系発達と土壌緊縛力による災害緩衝林の整備手法
10	減災に向けた森林の整備手法	(2)減災研究、(3)減災研究現場の視察や調査
11	治山事業	現地における治山施設の概要と見学
12	治山事業	現地における治山施設の概要と見学
13	山地災害の防止	(1)森林の整備手法、(2)山地災害の発生メカニズムと予防法
14	山地災害の防止	(3)治山事業の目的、(4)治山事業の方法
15	試験	森林機能保全に関する試験

テキスト	講義の際に資料を配付
参考書	ひょうごの山地防災ハンドブック(兵庫県治山林道協会、2010)、新砂防工学(朝倉書店、1991)、保安林の実務(森林保全研究会、1997)ほか
関連する資格	
備考	

科目番号	BA104						
科目名	造林学						
担当教員	大住 克博			所属等	鳥取大学名誉教授		
科目区分	生態・環境			人材養成の方針	即戦力	リーダー	地域貢献
対象学年	1年			授業形態	講義・演習		
開講時期	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	単位数	2	
授業時間数	15			コマ	(30 単位時間)		
実務経験のある教員による授業科目				—	左の実務経験の内容	—	
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				—	左の実務経験の内容	—	
実務経験を活かした授業内容							

目的	育林体系や森林整備に関する知識と技術を修得する。						
概要	針葉樹人工林の植栽、保育を中心とした単層林施業から、広葉樹林施業、混交林施業、天然生林施業などの多様な森林の整備まで、造林技術のひとつをおりを履修する。						
キーワード	①森林づくりの基礎 ②更新 ③保育 ④間伐と密度管理 ⑤主要樹種の造林方法 ⑥育種と育苗 ⑦森林の評価方法						
関連する科目	森林生態学、造林学実習						
到達目標	○	森林林業の即戦力として活躍するための実践的な技能の習得					
	○	森林林業の次代のリーダーとなるための専門知識及び技術の習得					
	—	多自然地域の振興や課題解決に貢献するための幅広い知識及び技術の習得					
評価方法	筆記試験90%、履修態度10%						

授業計画	テーマ	講義内容
1	育林技術の基礎	針葉樹人工林の育林技術の概要
2	育林技術の基礎	広葉樹林施業、混交林施業、天然生林施業など多様な森林整備の紹介
3	森林の更新	更新方法（人工造林と天然更新、実生苗と挿し木苗など）
4	森林の更新	森林の伐採と更新
5	森林の保育	下刈、つる切り、除伐、枝打ち等保育作業の目的、効用、時期など
6	森林の保育	間伐の目的と理論など
7	森林の密度管理	間伐方法の種類
8	森林の密度管理	密度管理手法と施業指針の作成
9	主要樹種の造林方法	主要針葉樹の適地と生理、特性、仕立て方
10	主要樹種の造林方法	主要広葉樹の適地と生理、特性、仕立て方
11	育種と育苗	樹苗の養成
12	育種と育苗	林木育種の概要
13	森林評価	森林評価の種類と方法
14	森林評価	立木の評価（演習）
15	試験	（学校対応）

テキスト	講義の際に、資料を配布する。
参考書	林業技術ハンドブック、森林林業実務必携、ニューフォレストーズガイドなど
関連する資格	樹木医補、森林情報士2級
備考	

科目番号	BB104						
科目名	造林学 実習						
担当教員	尾崎 真也			所属等	県立森林大学校森林教育専門員		
科目区分	生態・環境			人材養成の方針	即戦力	リーダー	地域貢献
対象学年	1年			授業形態	実習		
開講時期	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	単位数	1	
授業時間数	15 コマ (30 単位時間)						
実務経験のある教員による授業科目	-			左の実務経験の内容	-		
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○			左の実務経験の内容	伐採・造林業者、県緑化センター職員		
実務経験を活かした授業内容	伐採・造林一貫作業システムを採用している伐採・造林業者の指導の下、安全で効率的な育林技術の基礎を学ぶとともに、種苗の管理を行っている県緑化センター職員から、苗畑管理等の指導を受ける。						

目的	育林技術の基本作業を実習により学ぶ。						
概要	植栽、下刈、枝打ち、間伐など、育林技術を一通り実習する。						
キーワード	①植栽 ②下刈 ③針葉樹人工林の森林管理(間伐) ④広葉樹天然林、広葉樹人工林の森林管理 ⑤針広混交林について ⑥枝打ち ⑦苗畑管理						
関連する科目	造林学、森林計測学実習						
到達目標	○	森林林業の即戦力として活躍するための実践的な技能の習得					
	○	森林林業の次代のリーダーとなるための専門知識及び技術の習得					
	-	多自然地域の振興や課題解決に貢献するための幅広い知識及び技術の習得					
評価方法	課題50%、出席30%、態度20%						

授業計画	テーマ	講義内容
1	保育	下刈鎌及び刈払機による下刈
2	保育	下刈鎌及び刈払機による下刈
3	保育	下刈鎌及び刈払機による下刈
4	保育	下刈鎌及び刈払機による下刈
5	保育	林木育種と兵庫県緑化センターの取り組み
6	保育	林木育種と兵庫県緑化センターの取り組み
7	保育	球果採取実習
8	保育	球果採取実習
9	種苗生産	種子精選実習
10	種苗生産	苗畑見学
11	種苗生産	コンテナ苗見学
12	種苗生産	コンテナ苗見学
13	植栽	植栽実習
14	植栽	植栽実習
15	植栽	植栽実習

テキスト	資料配付
参考書	林業技術ハンドブック、森林林業実務必携、ニューフォレストーズガイドなど
関連する資格	樹木医補、森林情報士2級
備考	主に現地実習や現地見学により造林・保育の技術を学びますが、現地での理解を深めるため講義形式の授業を織り交ぜて展開します。

科目番号	BA106						
科目名	森林土壌学1						
担当教員	小館 誓治			所属等	兵庫県立大学研究員		
科目区分	生態・環境			人材養成の方針	即戦力	リーダー	地域貢献
対象学年	1年			授業形態	講義・演習		
開講時期	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	単位数	1	
授業時間数	8 コマ (16 単位時間)						
実務経験のある教員による授業科目				—	左の実務経験の内容	—	
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				—	左の実務経験の内容	—	
実務経験を活かした授業内容							

目的	森林の成立要件が土壌と関わりが深いことを学び、森林ごとに適した施業や管理の方法を考えられる力を養う。						
概要	森林土壌の性質と林木の生育との関係について学ぶ。						
キーワード	①土壌の性質と調査 ②土壌の生成過程 ③県内外の森林土壌						
関連する科目	森林生態学、造林学、樹木学、森林地質学、作業道作設理論						
到達目標	○	森林林業の即戦力として活躍するための実践的な技能の習得					
	○	森林林業の次代のリーダーとなるための専門知識及び技術の習得					
	—	多自然地域の振興や課題解決に貢献するための幅広い知識及び技術の習得					
評価方法	筆記試験67%、履修態度33%						

授業計画	テーマ	講義内容
1	森林土壌の性質と調査方法	土壌の分類
2	森林土壌の性質と調査方法	土壌の生成過程
3	森林土壌の性質と調査方法	土壌調査の方法
4	森林土壌の性質と調査方法	土壌の成因過程
5	兵庫県の土壌と森林	日本と兵庫県の土壌分布
6	兵庫県の土壌と森林	森林と土壌の関連性
7	兵庫県の土壌と森林	兵庫県の森林と土壌
8	兵庫県の土壌と森林	森林土壌まとめ

テキスト	講師作成テキスト
参考書	森林土壌の調べ方とその性質（森林土壌研究会編、（一社）日本森林林業振興会、1993）
関連する資格	樹木医補
備考	

科目番号	BB108				
科目名	保健休養学1				
担当教員	今井 通子		所属等	森林インストラクター兵庫県支部	
	森林セラピーガイド			県立森林大学校特任大使	
				宍粟市観光協会	
科目区分	生態・環境			人材養成の方針	即戦力 リーダー 地域貢献
対象学年	1年			授業形態	実習
開講時期	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	単位数 1
授業時間数	15 コマ			(30 単位時間)	
実務経験のある教員による授業科目			○	左の実務経験の内容	森林インストラクター
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無			－	左の実務経験の内容	－
実務経験を活かした授業内容	(一社) 全国森林レクリエーション協会認定の森林インストラクターの指導のもと、クラフトやキャンピングなどの実習を中心に森林における野外活動の意義や指導方法についての授業を行います。また、森林セラピーガイドの指導のもと、森林セラピーを体験します。				

目的	多様な環境と機能をもつ森林の環境学習・教育、レクリエーションの場としての利活用について学ぶ。	
概要	森林内における野外活動の意義や種類・内容、指導の手法を習得する。	
キーワード	野外活動、自然体験活動、環境学習・教育、木育、キャンプ、レクリエーション、野外ゲーム、クラフト、森林の活用、保健休養、森林セラピー	
関連する科目	樹木学、救急救命	
到達目標	－	森林林業の即戦力として活躍するための実践的な技能の習得
	－	森林林業の次代のリーダーとなるための専門知識及び技術の習得
	○	多自然地域の振興や課題解決に貢献するための幅広い知識及び技術の習得
評価方法	試験80%、態度20%	

授業計画	テーマ	講義内容
1	野外活動の指導法	野外活動の必要性・意義・野外活動と環境教育・野外活動のマネジメント・野外活動の指導
2	野外活動の指導法	自然観察
3	野外活動の基礎技術	地図を読む、気象と天気図
4	野外活動の基礎技術	自然素材を使った遊びと創作活動
5	野外活動の基礎技術	フィールドマナー・ロープワーク・刃物の使い方・たき火と野外炊事
6	キャンピング	キャンプの意義・目的・ねらい・キャンプの種類
7	キャンピング	キャンプの計画・選定 キャンプの組織と役割・キャンプの装備
8	ネイチャークラフト	色々なネイチャークラフトの紹介、意義、注意事項など
9	ネイチャークラフト	木の枝・木の実を使ったクラフト・つる細工・草木遊び
10	ネイチャークラフト	落ち葉を使ったクラフトなど (いずれか選定)
11	野外ゲーム	野外ゲームの意義・特性・特徴・ゲームを実施するうえでの留意点
12	野外ゲーム	ゲーム(楽しむ・協調性を養う(仁シツア))・環境教育的(リチャなど)
13	森林セラピー	森林セラピー体験
14	森林セラピー	森林セラピー体験
15	森林セラピー	森林セラピー体験

テキスト	森林環境教育の手引き ((社) 全国森林レクリエーション協会)
参考書	森林インストラクター養成講習テキスト ((社) 全国森林レクリエーション協会)
関連する資格	
備考	県立国見の森公園において、3日間 (4コマ/日×3日=12コマ) の授業を行います。

科目番号	BA109						
科目名	造園学						
担当教員	多田 学			所属等	登録ランドスケープアーキテクト (RLA)		
科目区分	生態・環境			人材養成の方針	即戦力	リーダー	地域貢献
対象学年	1年			授業形態	講義・演習		
開講時期	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	単位数	2	
授業時間数	15			コマ	(30 単位時間)		
実務経験のある教員による授業科目	○			左の実務経験の内容	公共空間の各種造園計画・維持管理		
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	-			左の実務経験の内容	-		
実務経験を活かした授業内容	地方自治体の「花のまちづくり」と庭園のデザインで培った経験等を基に、造園とは何か～公共空間～維持管理～造園デザインなど、造園学全般について講義を行う。						

目的	自然をよく理解した上で創造性豊かに造園学を学び、学生たちが自ら造園空間を提案できるまでに導く。		
概要	造園を自然と景観（ランドスケープ）という広い観点から捉え、自然の現状と保護・都市公園・庭園様式・維持管理・造園の素材・造園デザインなどといった造園全般を学び、同時に実際の庭園を見学する。最後に、造園計画の課題に取り組む。（講義では、言葉のみでなく、イメージで理解できるよう事例や写真を用いる）		
キーワード	造園、歴史（地球誕生～人類出現）、自然と破壊、法律（自然環境の保全、都市緑化）、自然公園、都市公園、公共空間、庭園様式、維持管理、造園材料、土壌、造園デザイン（計画／設計）、動線計画、土地の利用計画（ゾーニングと動線）、植栽計画		
関連する科目	造園学実習、生物学、森林計画、森林土壌学		
到達目標	○	森林林業の即戦力として活躍するための実践的な技能の習得	
	○	森林林業の次代のリーダーとなるための専門知識及び技術の習得	
	-	多自然地域の振興や課題解決に貢献するための幅広い知識及び技術の習得	
評価方法	出席率とレポート等50%、課題50%		

授業計画	テーマ	講義内容
1	造園とは、自然を知る	造園の趣旨、役割
2	自然を守る、自然に触れる	日本の自然、自然環境保全の主な法律と地域指定等
3	自然に触れる（自然の空間）	海外の自然公園
4	自然に触れる（自然の空間）	日本の自然公園
5	自然に触れる（都市緑地）	造園空間
6	造園空間の姿	庭園にみる様式の歴史（西洋）
7	造園空間の姿	庭園にみる様式の歴史（中国・朝鮮半島）
8	造園空間の姿	庭園にみる様式の歴史（日本）
9	造園を維持する	造園空間の維持管理、市民の活動
10	造園の素材と土壌	主な素材、土壌
11	造園デザイン	造園製図の基礎知識
12	造園デザイン	造園デザインの基礎
13	課題	説明と実演
14	課題	実演
15	課題	実演とりまとめ

テキスト	講師作成による資料。
参考書	造園計画（海文堂出版）、ランドスケープアーキテクトになる本 I・II（マルモ出版）、1級造園施工管理技士試験 第二版（彰国社）ほか
関連する資格	森林情報士2級、樹木医補
備考	

科目番号	BA110					
科目名	野生鳥獣被害対策					
担当教員	新見 満		所属等	県立森林大学校森林教育専門員		
	尾畑 俊彦			県立森林動物研究センター森林動物専門員		
科目区分	生態・環境			人材養成の方針	即戦力	リーダー 地域貢献
対象学年	1年			授業形態	講義・演習	
開講時期	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	単位数	2
授業時間数	15 コマ			(30 単位時間)		
実務経験のある教員による授業科目			○	左の実務経験の内容	森林動物専門員	
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無			－	左の実務経験の内容	－	
実務経験を活かした授業内容	兵庫県立森林動物研究センター所属の森林動物専門員から、集落柵の点検や獣害に強い集落づくり等、兵庫県が進める野生鳥獣被害対策の実践を学ぶ。					

目的	鳥獣による農林業被害の現状と概要及び狩猟に関する基礎について学ぶ					
概要	ニホンジカ、イノシシ、ツキノワグマ、ニホンザル等の主要な課外鳥獣の生態及び農林業被害の現状と対策の概要、また狩猟に関する基礎について学ぶ					
キーワード	①鳥獣保護法等関係法令 ②地域の鳥獣被害対策 ③狩猟道具の種類と捕獲方法					
関連する科目						
到達目標	－	森林林業の即戦力として活躍するための実践的な技能の習得				
	－	森林林業の次代のリーダーとなるための専門知識及び技術の習得				
	○	多自然地域の振興や課題解決に貢献するための幅広い知識及び技術の習得				
評価方法	発表50%、レポート15%、態度20%、出席15%					

授業計画	テーマ	講義内容
1	イントロダクション	鳥獣被害とは何か、その現状と対策は
2	鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律	法令の概要と12次鳥獣保護管理事業計画の内容
3	兵庫県の野生動物の現状	クマ、シカ、サル、イノシシ、アライグマの生態、被害状況と対策
4	兵庫県の野生動物の現状	クマ、シカ、サル、イノシシ、アライグマの生態、被害状況と対策
5	兵庫県の野生動物の現状	クマ、シカ、サル、イノシシ、アライグマの生態、被害状況と対策
6	フィールドワーク (被害状況調査)	森林大学校周辺の森林や集落の被害状況と防除対策を調査する
7	フィールドワーク (被害状況調査)	森林大学校周辺の森林や集落の被害状況と防除対策を調査する
8	生息地管理	野生動物共生林の視察
9	生息地管理	野生動物共生林の視察
10	生息地管理	野生動物共生林の視察
11	生息地管理	野生動物共生林の視察
12	グループ討議	野生鳥獣被害対策に関するグループ討議
13	グループ討議	野生鳥獣被害対策に関するグループ討議
14	グループ討議	野生鳥獣被害対策に関するグループ討議
15	発表	討議結果の発表

テキスト	資料を配付
参考書	狩猟読本（大日本猟友会）、鳥獣保護法の解説（大成出版社）、野生鳥獣被害防止マニュアル（農林水産省編）
関連する資格	狩猟免許（わな）
備考	